

令和8年度 狩留家地区エルモ運営委員会 事業計画書

1 今年度の目標

・ 設立 3 年目に入り、LMO の活動に関する地域の認知度をより高め、定着させる。
・ 地域課題である少子高齢化問題解決のため、多世代の住民が交流できる事業を充実させる。

2 ひろしま LMO 運営助成金を活用する事業

1 事業名	狩留家集会所祭り(芋煮会)	(14) 事業中 (1) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年11月23日	
(2) 実施場所	狩留家集会所	
(3) 参加者数	200 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 狩留家地区エルモ運営委員会、狩留家集会所運営委員会	
4 取組内容		
11 月 23 日に狩留家集会所祭り(芋煮会)を実施する。(狩留家集会所運営委員会を 10 月及び 11 月に開催し、実施内容を決定する。) ・ 男の料理サロン「わっはっは」により栽培された里芋を使った芋煮をふるまう。 ・ 狩留家で収穫された農産物の販売、郷土史研究会の展示、民謡・コーラス等の発表会を行う。		
5 目的・効果		
(1) 目的 (どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 人口減少傾向にある中、男の料理サロン「わっはっは」により栽培された里芋を使った芋煮をふるまう行事をはじめとする様々なイベントを行い、狩留家町内だけでなく他地区からの参加者とも交流・親睦を深め、今後もより賑わう場として、地域内外のコミュニティの活性化を図ることができる。 (2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 狩留家町民が世代間で交流し、他地区の方々との交流を図ることで、地域住民同士や他地区の方々との繋がりづくりが期待できるとともに、LMOを通じて実施することで狩留家の魅力をより広く発信できる。		

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	町内会サロン活動	(14) 事業中 (2) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	狩留家集会所、湯坂集会所、夢かるが	
(3) 参加者数	65 人（開催1回あたりの見込み）	
(4) 主催団体	団体名 狩留家地区社会福祉協議会	
4 取組内容	・狩留家町内の4町内会（町・西・湯坂・北部）毎にサロン活動を毎週・毎月実施する。 ・各町内会でのサロンで、健康体操・百歳体操・昼食・ゲーム等を共に行うことにより、狩留家町内での親睦を図り、また防災・防犯関係の学習会や包括センター等から講師を招いた講演会を実施する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 少子高齢化が進行する中、地域コミュニティを深めるための狩留家地区の4町内会で行うサロン活動を充実させ、住民同士のコミュニケーションを活性化させるとともに、防犯・防災意識を高める機会とすることができる。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 各サロンの活動は、高齢者と子ども達との触れ合い・交流の場として大変重要な福祉活動となっており、地域住民の健康増進と親睦を深めることが期待できるとともに、防災・防犯に関する意識向上の効果が期待できる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	高齢者見守り事業	(14) 事業中 (3) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(6) 地域の高齢者、障害者等への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	一人暮らしの高齢者宅訪問と一日バス遠足	
(3) 参加者数	50 人（配食対象見込み） 50 人（バス遠足参加見込み）	
(4) 主催団体	団体名 狩留家地区社会福祉協議会	
4 取組内容	・ 高齢者見守りとして、あんしんネット・防災について取り組む。 ・ 80 歳以上の一人暮らしの住民への配食を計 5 回行い、安否確認とともに、会話を通じて高齢者の心を癒す活動を行う。 ・ バスを使用する遠足を年 1 回企画し、高齢者と福祉委員、民生委員、地域の方々とのコミュニケーションをより活発にし、共助の精神をより伸長させる。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 増加している一人暮らしの高齢者の安否確認や災害発生時におけるより安全な避難誘導を可能にすることができる。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 狩留家町も高齢化が進み、日々の見守り対応が必要になってきており、この活動を継続することで、日々の安否確認だけでなく、災害発生時における共助活動を支えることができ、地域内で安心して暮らすことにつながる。また、1 日バス遠足を通じて、お互いのコミュニケーションをより深めることができる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	ぬくぬく会	(14) 事業中 (4) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 1 2 月	
(2) 実施場所	狩留家集会所	
(3) 参加者数	6 0 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 狩留家地区社会福祉協議会	
4 取組内容	・11月及び12月に実施内容の打ち合わせを行い、12月に狩留家集会所で各サロンの交流会として実施する。 ・狩留家保育園の園児による生活発表の場とする。 ・各サロンで提供されている料理をふるまう。	
5 目的・効果	(1) 目的 (どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 各サロンの交流会を実施することで、お互いの情報を共有することができ、また狩留家保育園の生活発表の場として、多世代間の交流と親睦を深めることができる。 (2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) この交流会は各サロン・地域の高齢者・子ども達の触れ合いの場として重要な福祉活動となっており、高齢者にとって外出機会の創出により健康増進にも繋がるとともに、住民間の親睦を深めることが期待できる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	狩留家探訪	(14) 事業中 (5) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(11) 地域の伝統的な行事又は文化の継承に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	狩留家町内	
(3) 参加者数	30 人 (1回あたりの参加見込み)	
(4) 主催団体	団体名 狩留家郷土史研究会	
4 取組内容	高陽公民館の支援を受け、狩留家をより知ってもらうために、年2～3回の狩留家探訪を実施する。また、その際は、芸備線活性化のために芸備線での来訪を促す。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 芸備線利用を促し、利用者を増加させることで芸備線の活性化を図るとともに、狩留家町及び中郡道を探訪し、狩留家の歴史・文化をたくさんの方々に周知し、町おこしに繋げることができる。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 高陽公民館だよりで広く宣伝するため、毎回定員を満たす多くの方々が参加し、リピーターも多い状況になっている。このため、探訪により狩留家の魅力をより広く紹介することで、交流人口が増加し、移住者の促進を図ることが期待できる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	狩留家なす栽培技術促進会議・収穫祭	(14) 事業中 (6) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(12) 地域の魅力の向上に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	会議(毎月第2木曜日) 収穫祭(令和8年7月4日)	
(2) 実施場所	狩留家集会所	
(3) 参加者数	会議(20人) 収穫祭(スタッフ20人)(見込み)	
(4) 主催団体	団体名 特定非営利活動法人NPO狩留家	
4 取組内容	・狩留家なす栽培技術促進のための会議を、安佐北区役所農林課、JA 高陽支所の協力のもと毎月1回開催する。 会議内容 (1)狩留家なす栽培の土づくり研修 (2)次年度の栽培取り組み方針の打ち合わせ (3)狩留家なす農家や狩留家なす栽培に興味がある方を対象とした相談会等 ・また、収穫祭の支援スタッフに交通費を支給する。	
5 目的・効果	(1) 目的(どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 会議開催と通じて、狩留家なすの更なるブランド化に向けた検討を進め、狩留家なすをきっかけとして、狩留家に興味を持つ人を増やす。また、収穫祭には多くの方が訪れるため、交通費を支給することにより、スタッフの負担軽減が期待できる。 (2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 狩留家なす栽培の土壌の在り方や微生物農法の土づくりを検討するとともに、狩留家なす農家の悩み相談を受け、狩留家のブランドである狩留家なすを今後より安全でより多く栽培することに繋がれば、狩留家なすの更なるブランド化及びそれに伴う狩留家の魅力向上が期待できる。また、担い手確保の観点から、収穫祭のスタッフに交通費を支給することで、収穫祭に関わる人が増加することが期待できる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	ちびっこ広場納涼祭	(14) 事業中 (7) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(5) 地域のこども及び子育て世帯への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年7月18日	
(2) 実施場所	狩留家駅前ちびっこ広場	
(3) 参加者数	150 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 狩留家地区社会福祉協議会	
4 取組内容	・狩留家町だけでなく、周辺地区からも子供たちを呼び込み、様々なゲームや遊びを通じて、楽しい夏の思い出作りの一助とする。 ・祭りの開催に当たっては、チャレンジゲーム大会、売店、くじ等の内容を検討し、子ども達が楽しめるよう工夫する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 納涼祭を通じて、子ども同士の交流により親睦を深め、周辺の子ども達にも魅力を認識してもらうことで、狩留家町により定着することを促進する。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 子どもを対象としたお祭りを開催することにより、家の中でビデオゲーム等にばかり集中しがちな子供たちを屋外に誘導することができ、身体的活動を通じて子供たちがより健康で活発に育つことが期待できる。また、子ども達だけでなく、親等多様な世代の住民が参加・交流する機会ともなり、地域の活性化につなげることが期待できる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	敬老祝賀会	(14) 事業中 (8) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(6) 地域の高齢者、障害者等への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年9月21日	
(2) 実施場所	狩留家集会所	
(3) 参加者数	85 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 狩留家地区社会福祉協議会	
4 取組内容	・前記日時場所において、75歳以上になられた方を招待し、長寿を祝う。 ・保育園児から高齢者までが一堂に会し、高齢者の長寿を祝賀することで、3世代の交流促進を図る。（今後開催される狩留家地区社会福祉協議会役員会及び理事会において、具体的取り組み内容を協議する。）	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 敬老の日は高齢者に敬意を払い、祝福する日であることから、社会福祉協議会においても協議会のみならず、未就学児や子ども会等による祝賀式典や各サークルによる催し物を実施することで、世代間の交流を促進する。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 狩留家町全体で75歳以上の人口比率は25%を超え、過疎化及び高齢化による高齢者の独居生活が増加しており、3世代が一堂に会し交流することは、地域の連帯感の醸成や高齢者を労わる精神の育成に効果があることが期待できる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	盆踊り大会	(14) 事業中 (9) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(11) 地域の伝統的な行事又は文化の継承に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年8月13日	
(2) 実施場所	狩留家集会所	
(3) 参加者数	250 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 狩留家集会所運営委員会	
4 取組内容	・毎年8月13日に狩留家集会所にて盆踊り大会を実施する。 ・大会実施に先駆け、集会所にて盆踊りの練習会を3回程度持つ。 ・大会実施当日の朝、住民有志で櫓を組む。 ・大会では、JA レディースによる軽食が販売され、また、子ども向けの駄菓子やくじ等も用意する。 ・最後に、お楽しみ抽選会を実施する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 継承することが困難になりつつある狩留家町の盆踊りを、練習会と盆踊り大会を通じて、地域の文化として継承することを目指す。また、就学前の子どもから高齢者までが一堂に会し、楽しい時間を共有することで、思い出づくりの一助とすると共に、狩留家町以外からの参加者に対し、狩留家町の魅力を発信する。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） コロナ禍明け以降毎年開催しており、内容を工夫することで狩留家町以外からの参加者が増加することが期待でき、狩留家町の魅力を発信する良い機会となっている。また、狩留家町の住民同士にとっても交流機会が増えることにより、日常におけるコミュニケーションがよりスムーズになることが期待できる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	秋祭り	(14) 事業中 (10) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(11) 地域の伝統的な行事又は文化の継承に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年10月12日	
(2) 実施場所	狩留家町内	
(3) 参加者数	30 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 狩留家集会所運営委員会	
4 取組内容	・町内の子ども会と連携し、子ども神輿が午前中に西八幡神社、午後に東八幡神社及び湯坂山神社を訪れ、神輿でお祝いし、町内の住民と交流する。 ・秋祭り前日に、集会所にて子ども神輿の準備を行う。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 子ども会の会員数が減少する中、子ども神輿に地域住民も積極的に関わることで、狩留家町で伝統的に行われてきた子ども神輿を継続する。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 子ども神輿を狩留家町内で披露することにより、地域内のにぎわいの創出や多世代の交流を促進することに繋がる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	防災・防犯教室	(14) 事業中 (11) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(8) 地域の防災又は減災に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	狩留家集会所	
(3) 参加者数	40 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 狩留家地区エルモ運営委員会	
4 取組内容	・防災教室と防犯教室を隔年で開催する。 ・狩小川学区連合会主催の防災訓練が予定されている場合は、防犯教室を開催する。 ・防犯教室では、地域警察署等と連携し講師を招いて、防犯意識を高める。 ・また、防災対策として備品を整備する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 高齢化が進む中、交番もなく、住民個人が防犯意識を高め、特殊詐欺被害等を未然に防ぐ必要があり、防犯教室を通じて、防犯意識の向上を図る。また、狩留家町は以前より水害被害が多く発生している地域であり、高齢化も進んでいることから、これからの梅雨時期を見据え、防災対策に向けて備品を整備する。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 防犯教室を開催することにより、高齢者等の防犯意識が高まり、こうした意識が地域全体に広がることにより、狩留家町がより住みやすい地域の実現に繋がることが期待できる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	狩留家地区美化活動	(14) 事業中 (12) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(7) 地域の生活環境の整備又は美化に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	狩留家町内	
(3) 参加者数	50 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 狩留家地区エルモ運営委員会	
4 取組内容	・ 狩留家町の入り口と狩留家駅前にある花壇を整備する。 ・ 狩留家駅周辺を定期的に清掃する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 狩留家町の入り口と狩留家駅前にある花壇を整備し、狩留家駅を清掃することで、狩留家町の魅力を向上させることができる。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 整備・清掃により狩留家町の魅力を向上させることで、移住者の増加や芸備線の活性化に寄与することが期待できる。また、この活動を通じて、参加者間の交流が深まることが期待できる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	みんなで体操	(14) 事業中 (13) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(2) 地域住民の健康の維持増進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	狩留家集会所	
(3) 参加者数	15 人（開催見込み 月4回開催）	
(4) 主催団体	団体名 狩留家地区社会福祉協議会	
4 取組内容		
・毎週木曜日、狩留家集会所で「みんなで体操」を実施し、住民の健康維持に努めつつ、コミュニケーションをより促進させる。		
5 目的・効果		
(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 狩留家集会所での「みんなで体操」の活動を通じて、住民の健康を維持・向上させる。		
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 体操をみんなで体験することにより、健康維持のみならず、住民間のコミュニケーションをより促進し、自助・公助の意識を高揚させることに繋がる。		

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	空き家リサーチ	(14) 事業中 (14) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(1) 地域の伝統的な行事又は文化の継承に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	狩留家集会所	
(3) 参加者数	6 人（開催見込み 年2～3回実施）	
(4) 主催団体	団体名 狩留家地区エルモ運営委員会	
4 取組内容		
・年2～3回、狩留家町内の空き家状況を把握するためにフィールドワークを実施する。		
5 目的・効果		
(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 狩留家は広島から一番近い田舎として、都会から離れたちよūdいい田舎時間を満喫できる立地にあり、空き家ニーズに応えるため、年々増加している狩留家町内の空き家の状況を調査する。		
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 狩留家の空き家状況を把握することで、狩留家への移住希望者へ情報を提供し、移住促進を図る。		

3 自主財源で実施する事業

特になし